

令和7年度 学校経営計画

四條畷市立四條畷中学校

校長 河上 弘子

I 学校経営方針

●学校教育目標

《心を磨く》強い意志と豊かな心を持ったたくましい生徒の育成

《人に学ぶ》自ら学ぶ意欲と考える力を持った生徒の育成

●育てたい生徒像

しなやかに、たくましく生きる生徒の育成

●令和7年度重点目標

「みんな大事 ～『あたりまえ』にいいね!～」

☆学校は安全・安心な場所

- ①学校に来ると楽しい
- ②クラスに自分の居場所がある
- ③安心して人と話すことができる
- ④授業が「わかる」、がんばると「できる」と感じる
- ⑤クラス・学年の取組みや学校行事クラブ活動が楽しい
- ⑥あたりの日常を大切に生活する
- ⑦あたりのことができていることを認めてもらっている

2 めざす学校像、子ども像、教師像（中期目標）

★めざす学校像	明日も行きたいと思える学校
★めざす子ども像	しなやかに、たくましく生きる生徒
★めざす教師像	温かい声かけ、温かいまなざしのある教師 生徒にとって一番身近なロールモデル

3 学校の現状(よさと課題)

(1) 子どもたちの実態

学校生活全般において素直に積極的に取り組める生徒が多く、学習面でも「わかりたい」、行事に関しても「やってみたい」と前向きな思いを持っている。

しかしながら、成育過程において、保護者や周りの大人が保護したり、先回りして手助けすることもあったのか、失敗したり、そのうえでやり直してみてもうまくいったという経験が少ないような気がする。人とぶつかりながらも、より良い答えを見つけたり、失敗してもやり直せるという経験をさせたりしながら、自立をめざして、自己選択・自己決定を促す必要がある。

また、自分の発言を周りがどう思っているかを気にする動きや、周りに同調して、自分の意思どおりに行動できないことがあり、人間関係が限られたものになりがちである。

あわせて、不登校傾向の生徒が一定数いる。何らかのつながりをつくることを目的として、ここ数年、教育支援ルームや個別対応の充実に注力してきた結果、朝からは登校できなかつたり、教室には入れないという生徒が、教育支援ルームには登校することができたり、通級指導教室には登校することができたりしている。

個別への対応が注目されがちであるが、ほとんどの生徒がまじめに学校生活に取り組んでいる。あたりまえの学校生活を、あたりまえに送れている生徒たちをしっかりと認めながら、集団の力を育てる必要がある。

学習面は、家庭での学習習慣の定着が課題であり、生活とともに、主体的な取り組みへのしかけも必要である。

(2) 子どもたちを取り巻く環境

①教育環境

統合により校区も広くなり、生活環境(経済的なこと含む)や家庭状況は様々である。保護者によっても考え方は多様であり、一律な、紋切り型の指導にはなじまない生徒が一定数いる。「違いがあつて当然であること」「違いを認めること」また、「違いを受け入れ合い、折り合いをつけていく力」がより大切であると考ええる。

②地域

全体的に学校教育に関しては協力的な地域である。保護者も(時に代々)卒業生であることも珍しくない。

南中と囃中が統合したため校区が広く、それぞれの地域によって大切にしてきたものがあり、それらの交流や共有ができるとよいと考える。コミュニティスクールの取り組みを通して、地域との連携を深めていきたい。

③組織(教職員、PTA、保護者)

・教職員

こどもに丁寧に寄り添い、繋がろうとしており、とても熱心に日々の指導・支援に取り組んでいる。20~50代以上の年代がバランスよくいる教員構成ではあるが、20~30代が半数以上を占めている。経験年数や本校在籍年数を鑑み、各学年の教職員構成のバランスをとっている。主任や主事、部長などは、いわゆるミドルリーダーが担っており、学校運営はスムーズに進んでいる。

・PTA、保護者

PTAはとても協力的であり、十分に情報共有・連携ができており、学校運営の大きな支えとなっている。昨年度より、PTA活動を「できる人が、できる時に、できることを」という活動趣旨に変更し、組織をスリム化した。

保護者は、概ね学校教育に熱心で、一定の理解を得ている。子どもから聞かれた情報等で不安に感じられたり、不明に思われたりすれば、まずは学校に連絡をくださることが多い。

(様式1)

4 今年度の達成目標、具体的な方策

目標設定区分Ⅰ『学校経営』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)
「みんな大事～『あたりまえ』にいいね!～」 ☆学校は安全・安心な場所 ①学校に来ると楽しい ②クラスに自分の居場所がある ③安心して人と話すことができる ④授業が「わかる」、がんばると「できる」と感じる ⑤クラス・学年の取組みや学校行事クラブ活動が楽しい ⑥あたりまえの日常を大切に生活する ⑦あたりまえのことができていることを認めてもらえている		学習・学校生活に関するアンケート(生徒・教職員)での肯定的回答 A:学校に来ることは楽しいですか B:クラスや学年のつながりが広がりましたか C:自分の良いところや友達の良いところを見つけられますか D:みんなのために進んで自分の役割を果たせますか E:しんどい時困った時に周囲の仲間に相談できますか F:授業中、安心して発言できていますか G:学校の授業はよくわかりますか H:行事やクラブ活動などに積極的に取り組んでいますか I:「やってみる」「ねばーる」「つながる」を意識しているか J:先生はあなたの良い所を認めてくれていると思いますか
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準 *肯定的回答	具体的な方策
①楽しい学校づくり	A:85%以上 B:85%以上	・日々の活動の中で小さな楽しみやつながりを増やす ・生徒会・委員会・係活動を活発化し、達成感を感じさせる
②居場所づくり	C:85%以上 D:85%以上 E:80%以上	・班活動、グループ活動を活発に取り入れ、集団づくりをすすめる ・生徒会・委員会・係活動を通じて、自分の役割を意識させる ・教育支援ルームや通級指導教室など、個に応じた居場所の提供
③心理的安心感	E:80%以上 F:80%以上	・道徳、人権教育を中心とした全活動で、認め合う優しい心を育成 ・人権意識を高く持ち、子どもの発言・行動を見守る ・班やグループ活動を通じて、人とのつながり方を身につけさせる ・特性、背景を理解し、子どもに寄り添った生徒指導を行う
④「わかる」「できる」をめざした授業改善	G:85%以上	・ICTも活用しながらわかりやすい授業工夫を行う ・非認知能力を育成しながら認知能力も高める工夫をする ・授業のあり方、評価の方法について研鑽を深める
⑤行事やクラブへの積極的な取組み	H:85%以上	・子どもたち主体で、企画・運営させ、達成感、成功体験を増やす ・クラブ活動等を通じて、子どもの活躍の場をつくる
⑥あたりまえの日常	I:75%以上	・授業や学級活動、委員会・班活動での振返りを大切にする
⑦承認されている感覚	C:85%以上 J:85%以上	・子どもの様子をしっかりと見とり、的確なタイミングで声かけする ・教師がロールモデルとなり、認め合える集団をつくる

(様式1)

目標設定区分2『学校組織の運営』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)
「みんな大事 ～『あたりまえ』にいいね!～」の実現のために教職員で心がけたいこと		学習・学校生活に関するアンケート(教職員)における肯定的回答と会議等での意見、面談等で聞き取る意見
①教職員間のコミュニケーション		K: 学校の状況や課題に対し全職員で組織的に取り組んでいるか L: 「みんな大事」を意識して取り組んでいるか
②情報共有、役割分担を意識した組織対応		M: 「わかる」「できる」をめざした授業改善に取り組んでいるか
③活発な意見交流や議論によるイメージ共有		N: 安心して学べる場を作るという活動を意識して取り入れているか
④肯定的な生徒理解、合理的配慮		O: 肯定的な生徒理解で、どうすればうまくいくかという思考であるか
⑤教職員が楽しむ姿を見せるロールモデル		P: 主任会、学校運営委員会での意見
⑥教育公務員としての適切なふるまい		Q: 面談等での意見
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準 *肯定的回答	具体的な方策
①教職員間のコミュニケーション	K: 80%以上 L: 85%以上 P・Q:	・グループウェアなども活用した情報共有 ・ちょっとした時間での生徒情報の共有 ・何を大事にして指導にあたるかの定期的な確認
②情報共有、役割分担を意識した組織対応	K: 80%以上 O: P・Q:	・グループウェアなども活用した情報共有 ・担任だけが抱え込まない学年・学校対応のための情報共有 ・何を大事にして指導にあたるかの定期的な確認・情報共有
③活発な意見交流や議論によるイメージ共有	L: 85%以上 O: P・Q:	・担任だけが抱え込まない学年・学校対応のための情報共有 ・何を大事にして指導にあたるかの定期的な確認・情報共有 ・職員会議等を活用したミニ交流タイムの設定
④肯定的な生徒理解、合理的配慮	M: 90%以上 N: 85%以上 O:	・何を大事にして指導にあたるかの定期的な確認・情報共有 ・職員会議等を活用したミニ研修、交流タイムの設定
⑤教職員が楽しむ姿を見せるロールモデル	L: 85%以上 P・Q:	・学級通信や学年集会、HRなどでの教職員の語り ・セルフメンテナンス
⑥教育公務員としての適切なふるまい	Q:	・職員会議等での定期的な注意喚起 ・同僚性を活用した相互によるチェック

(様式1)

目標設定区分3『人の管理・育成』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)
学校づくりに主体的に参画する人材の育成 ①主任や部長からの発案の促しと委任 ②学校⇄部・学年⇄学級という組織的な意思決定		学習・学校生活に関するアンケート(教職員)における肯定的回答と 会議等での意見、面談等で聞き取る意見 K: 学校の状況や課題に対し、全職員で組織的に取り組んでいるか P: 主任会、学校運営委員会での意見 Q: 面談等での意見
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準 *肯定的回答	具体的な方策
①発案の促しと委任	K: 80%以上 P・Q:	・ミドルリーダーとコミュニケーションを密にし、主体性を引き出す ・トップダウンではなくボトムアップによる学校風土づくり ・主任、部長への権限移譲
②組織的な意思決定	K: 80%以上 P・Q:	・小集団での論議、当事者の意見を尊重した学校意思決定

目標設定区分4『地域連携と渉外』

A 今年度の成果目標		達成基準(各種調査、アンケート等)
・CS(コミュニティスクール) ①学校ニーズに応じた安定的な活動 ②地域への積極的な発信 ・小中連携 ③小中の教職員の交流、9年間を見通した取り組みの充実		学校教育に関するアンケート(保護者)の肯定的回答と、発信 R: 学校は保護者地域の願いに応えている S: メールや通信によって学年の様子を知ることができる T: 暇中だよりの定期的発行や各会議における発信 P: 主任会、学校運営委員会での意見 Q: 面談等での意見
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準 *肯定的回答	具体的な方策
①ニーズに応じた安定的な活動	R: 80%以上 S: 80%以上	・CS 会議において、学校ニーズと地域の思いをすり合わせる ・地域の方々による定期的な学校への関わり(顔の見える関係)
②地域への積極的な発信	T: 年間 10 回以上	・暇中だよりや各会議にて、保護者や地域への発信を行う
③小中連携の充実	P・Q:	・長期休業等に、小中学校合同研修を企画し、交流を深める ・暇中校区小中連携会議での課題の共有、イメージ合わせ ・9年間を見通した子どもの育成のための役割分担および協働